

中学校社会科におけるジグソー学習法を用いた 自己指導能力の育成に関する実践研究

学籍番号 159978

氏名 長越大輝

主指導教員 森田英嗣

1. 本研究の目的

現在の学校現場では、生徒指導上の課題に対して対処療法的な生徒指導が重点的に行われている。このような状況の中、生徒の「自己指導能力」（その時、その場でどのような行動が適切であるか自分で考えて、決めて、実行する能力）を育成し、課題を予防する生徒指導が今必要となっている。しかしながら、「自己指導能力」を育成する生徒指導は主に特別活動の中で行われており、教科教育においては、意識的に行われていないのが現状である。そこで本研究の目的は、大阪市内の中学校で2年間にわたる実践研究を通して、教科教育の中で生徒指導上の課題に対する予防的方法の1つとして、生徒の「自己指導能力」を筆者の専門である社会科において「ジグソー学習法」を用いて育成を検討した。また、「ジグソー学習法」が「自己指導能力」を育成する生徒指導の3機能である「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」を実現した学習方法といえるのか、その可能性を検討することにした。

2. 自己指導能力の育成に関する実践研究1

実践研究1では、自己指導能力を育成する生徒指導の3機能が「ジグソー学習法」の中にあると仮定し、「ジグソー学習法」が一斉授業（教師の一方向性による授業）よりも生徒の自己指導能力を育成することが出来たのか検証した。研究方法は、一斉授業とジグソー学習法を用いた2つの授業を行い、それぞれの授業に対して同質問紙調査を実施、ジグソー学習法を用いた授業の方が一斉授業よりも質問紙項目の平均値が高ければ、ジグソー学習法が一斉授業よりも自己指導能力を育成することができたと考えた。その結果、ジグソー学習法を用いた授業の方が質問紙項目の平均値が高かったが、そもそも自己指導能力という生徒の能力育成については、短期間の実践において、そのエビデンスを把握することは難しく、あくまでも長期的な働きかけの中で実践されるべきであるように思われた。

3. 自己指導能力の育成に関する実践研究2

実践研究1の課題を踏まえて実践研究2では、ジグソー学習法が真に自己指導能力を育成する生徒指導の3機能を実現しているのか否か検証を行った。研究方法としては、事前にジグソー学習法を分節化し、学習法のどの部分において、自己指導能力が育成されるのか、言い換えれば生徒指導の3機能が実現されているのか、授業者の視点から指導案上に価値づけた。次にジグソー学習法を用いた授業後、生徒に自己指導能力を育成する機会が

ジグソー学習法各分節のどこにあったのかについて回答を求めた。この教員と生徒のジグソー学習法内における自己指導能力を育成する機会の相違により、どの機会において自己指導能力を育成するジグソー学習法の強みがあるのか、どの機会が弱いのかを検証した。その結果、「自己決定の場を与える機会」の項目、「共感的な人間関係を育成する機会」の項目において、授業者と生徒の視点の一致が見られた（ジグソー学習法は2機能が実現された学習方法であると言える）。しかしながら、ジグソー学習法には生徒1人ひとりに役割があり、友達の役に立つ場面が点在するにも関わらず、「自己存在感を与える機会」が「なかった」と回答する生徒が多い結果となった。教科書から抜き出すだけの課題設定（誰にでもできる）によって、ジグソー学習法の特徴である他者がいなければ課題を達成することができない状況を生み出すことができなかつたと考察された。

4. 自己指導能力の育成に関する実践研究3

実践研究3においては、実践研究2の反省を改善するべく、「自己存在感を与える機会」を組み込んだ授業設計のあり方を更に追究することにし、課題設定において、自分しか持っていない（課題遂行しなければ他者の力になれない）新聞記事を読破し、それを要約・他者伝達するという課題を与えた。実践研究2において機会が「なかった」の回答が多かった「自己存在感を与える機会」に関する2項目について再度質問紙調査を行ったところ、ジグソー学習法に自己存在感を与える機会が「あった」と回答した生徒の数が実践研究2と比較し増加した（マクネマー検定により有意差が認められた）。自分が課題を遂行しなければ他者の力にはなれないという要因が「自己存在感を与える機会」として重要であることが伺えた。

5. 総合考察

実践研究2, 3の結果から、「ジグソー学習法」は自己指導能力を育成する生徒指導の3機能を十分に実現しうる学習方法であると考えられた。そしてこのことは、自己指導能力の育成が特別活動だけではなく教科教育の中でも予防的な意味で実施可能であることを示している。

本研究においては、ジグソー学習法を用いて自己指導能力を育成する生徒指導の3機能を実現した授業を実施したが、生徒の自己指導能力の育成について直接的な証拠として捉えることはできなかった。今後はジグソー学習法を用いて生徒の自己指導能力そのものの把握を目指したい。また、ジグソー学習法を教科の中に毎時間取り入れるのは時間的側面からして難しいことから、ジグソー学習法以外の学習方法においても、自己指導能力を育成する生徒指導の3機能を組み込み、教育方法のレパートリーを増加していきたいと考える。このことを通して、教科教育の中で、長期的・計画的（カリキュラムづくり）に生徒の自己指導能力を育成し生徒指導の課題を予防していきたい。